

さあ、ベツレヘムへ行こう

ルカ 2 : 8 - 20



司祭 ヨハネ 井田 泉

2014年12月2日

降誕日前夕

奈良基督教会にて

「天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、『さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか』と話し合った。」 2:15

天使の知らせを聞いた羊飼いたちは、その出来事を見るために、ベツレヘムへ出かけて行きました。

天使がもたらしたのは喜びの知らせです。

「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」 2:10-11

ほんとうに、そこには喜びが待っていました。羊飼いたちは天使が告げたとおり、飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけました。

喜び。羊飼いたちが乳飲み子イエスを見て経験した喜びは、一時的なものではありません。それは、ずっと生涯にわたって続く喜び、子々孫々まで続く喜びです。なぜならその喜びは、深い悲しみが慰められた喜びだったからです。

ベツレヘムという町には、イエスの誕生に至るまでにいくつかの歴史の記憶があります。

イエスさまの父親となったヨセフ。そのヨセフの先祖を 1000

年さかのぼるとダビデに達します。ベツレヘムに住むエッサイの8人目の男の子で、羊飼いをしていました。やがてイスラエルの王となった人です。

それからさらに 700 年あまりさかのぼると、ヤコブという人がいます。このヤコブにはベツレヘムに関わる悲しい記憶があります。イエスさまからさかのぼること 1700 年前の先祖、今から 2700 年の昔です。

天使のお告げを聞いた羊飼いたちはその場所を知っていたかもしれませんが。北から南に至る道があり、ベツレヘム向かうところに記念碑が立っていました。それはひとりの女の人が死んで葬られた場所に立つ記念碑です。

イエスさまの遠い昔の先祖ヤコブは、つらい事情があつてひとり家を離れ、はるかに遠い北のパダン・アラムの伯父さんの家で暮らし、20 年ぶりに故郷に帰って来ました。2 人の妻と 12 人の子どもたち。それにたくさんの家畜を連れていました。

北から南に向かって道を進み、やがてベツレヘムに近づこうとするとき、妻ラケルのお産が始まりました。難産でした。助産婦が励ましました。「心配ありません。今度も男の子ですよ」
(創世記 35:17)

かろうじて男の赤ちゃんが生まれましたが、ラケルはそのまま息を引き取りました。ラケルは死ぬ前にその子を「ベン・オニ」と呼びました。「わたしの悲しみの子」という意味です。こ

の子は母親を知らない子になる。

しかし父ヤコブはそのあまりに悲しい名前に耐えられず、その子の名を「ベン・オニ」に代えて「ベニヤミン」（幸せの子）と呼びました。

ヤコブはベツレヘムに向かうその道の傍らにラケルを葬って、そこに記念碑を立てました。ベツレヘムは、このようなラケルとヤコブの悲しみの記憶の場所です。

羊飼いたちはそれを知っていたでしょう。

ヤコブがラケルを道の傍らに葬ってから 1700 年の後、同じ道を北から南へと、ベツレヘムを目指す若い男女がありました。女の方は臨月を迎えていました。マリアとヨセフです。マリアは月が満ちて子どもが生まれようとしています。ベツレヘムに宿が見つからない。ヨセフは先祖ヤコブとラケルのことを思ったのではないのでしょうか。恐ろしい心配が胸をよぎります。男の子が生まれて、マリアは……。

無用の心配でした。無事に赤ちゃんが生まれて、母子共に元気でした。赤ちゃんは飼い葉桶に眠っています。

ベツレヘムにイエスさまがお生まれになったことの中に、大切な意味がこめられています。ベツレヘムは人の悲しみの記憶の場所。イエスは、人の悲しみの場所においでなり、そこで人生を始められたのです。

イエスはわたしたちの悲しみと苦しみを知ってください。

イエスはわたしたちの悲しみと苦しみを引き受けてください。

イエスはわたしたちの悲しみと苦しみを喜びと命に変えてくださる。

ベツレヘムの飼い葉桶に始まったイエスの道は、十字架に極まります。

ラケルの悲しみは、ヤコブの悲しみは、ベツレヘムにおいでになったイエスさまによって引き受けられました。悲しみは包まれおおわれて、慰めが満ち、喜びが生まれます。

ラケルとヤコブだけではなく、すべての人の悲しみはベツレヘムにお生まれになった方によって慰められるのです。

ベツレヘムの羊飼いたちは、そのことを最初に知らされて知ったのでした。

「さあ、ベツレヘムへ行こう。」

ベツレヘムの羊飼いたちがわたしたちに呼びかけています。

この方が、わたしたちの悲しみと苦しみを知ってください。

この方が、わたしたちの悲しみと苦しみを引き受けてくださる。

この方が、わたしたちの悲しみと苦しみを喜びと命に変えてくださる。

「天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、『さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか』と話し合った。そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思った。しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。」ルカ 2:15-20

ベツレヘムに生まれた方から、羊飼いたちは慰めを受けました。わたしたちもこの方から慰めを受けます。羊飼いたちに起こった喜びと賛美が、わたしたちにも起こりますように。